

2026年6月1日

AIは人類の免疫システムになる。



日本経済新聞に「ミユトス級 AI」の記事が掲載された。OpenAI や Anthropic は、対話 AI としてだけでなく、サイバー空間の脅威を検知し、防御する AI の開発を本格化させている。多くの人はいこう考える。「AI によってサイバー攻撃はさらに危険になるのではないか。」その見方は正しいがそれは半分しか正しくない。

人類はこれまで、新しい力を手に入れるたびに新しい防御を作ってきた。

船が生まれれば灯台ができた。

自動車が生まれれば信号機ができた。

飛行機が生まれれば管制塔ができた。

インターネットが生まれればセキュリティ技術が生まれた。

AI も同じである。AI が攻撃能力を高めるなら、AI は防御能力も高める。そして歴史的

に見れば、防御技術は最終的に社会基盤へ組み込まれていく。未来の企業では、深夜に誰もいないオフィスでAIが働いている。

AIが脆弱性を発見する。

AIが侵入を検知する。

AIが修正プログラムを書く。

AIがその修正を検証する。

そして翌朝、人間が出勤する頃には問題はすでに解決されている。そんな光景は決してSFではない。すでに始まっている未来だ。人間の身体には免疫システムが存在する。細菌やウイルスを発見し、分析し、攻撃し、その経験を記憶する。サイバー空間も同じ段階へ入りつつある。AIは社会の中を流れるデジタル免疫細胞となる。異常を発見し、危険を予測し、被害を最小化する。つまりAIは単なる知識検索エンジンではないのだ。社会そのものを守る存在へ進化し始めている。やがて攻撃AIと防御AIは人間の理解速度を超える。

攻撃コードはAIが生成し、防御コードもAIが生成する。AI同士がミリ秒単位で戦う。人間はその戦場を直接理解することすら難しくなる。それでも人間は不要どころかむしろ逆である。人間には方向性を決める役割が残る。

何を守るのか。

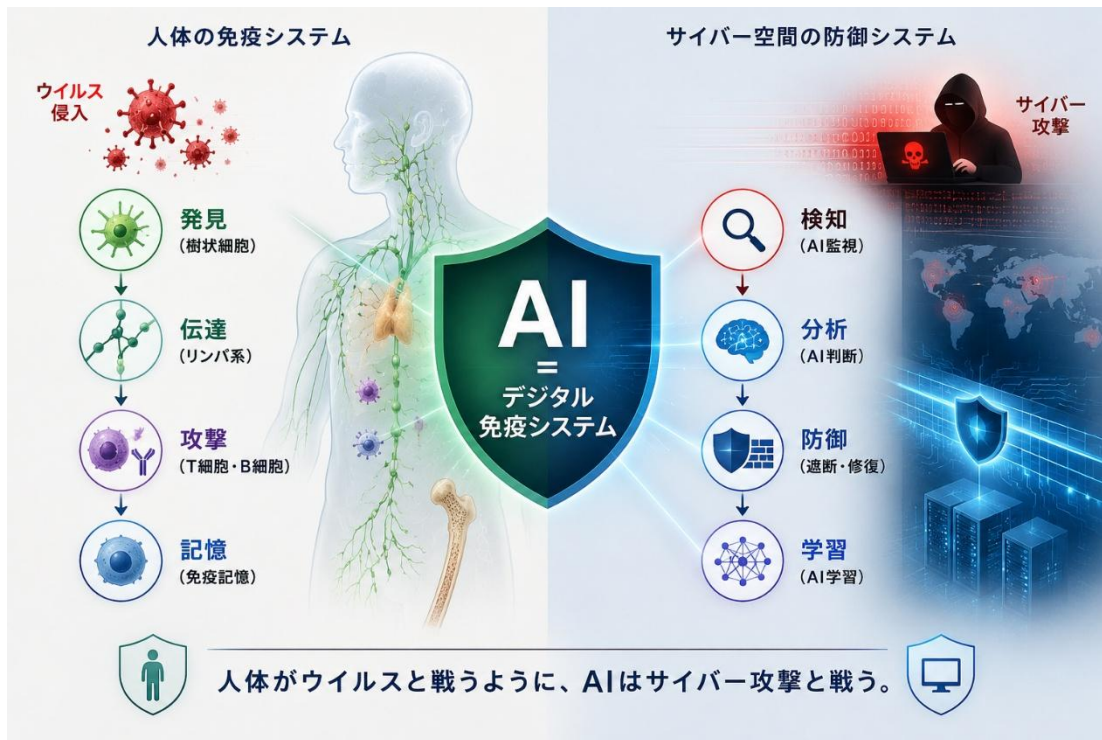
何を許容するのか。

どこまで自由を認めるのか。

それはAIでは決められない。蒸気機関は人類の筋肉を拡張した。コンピュータは人類の計算能力を拡張した。生成AIは人類の知的作業を拡張した。そしてミュトス級AIは、人類の免疫システムそのものを拡張し始めた。私たちは今、「AIと会話する時代」から「AIによって文明を防御する時代」へ入ろうとしている。その変化は、多くの人が思っているよりずっと大きい。

多くの人たちはAIを単なる対話ツールとしてしか見てない。しかし、AIの本質はそこにはない。AIは社会の異常を早期に発見し、分析し、対処し、その経験を蓄積する。これは医療における免疫機構そのものである。

生成AIの登場は、人類が新しい知能を作った出来事ではない。人類が文明そのものを守る「免疫」を獲得した出来事なのだ。



石川県薬剤師会 AI 理事 エヴァ